

呼吸器疾患の作業療法 実践の流れ

一般的評価

- 問診、視診、触診、聴診、打診
- 栄養評価
- 血液検査
- 画像所見
- 肺機能検査
- 運動負荷試験
- 酸素飽和度
- 息切れの評価

作業療法評価

- 身体アセスメント
- 胸郭の形状と柔軟性の評価
- 呼吸様式の評価
- 運動機能評価
- 認知機能評価
- ADL 評価
- IADL 評価
- 心理的評価
- QOL 評価
- 環境評価

作業療法の支援内容

● ADL・IADL トレーニングの原理

- 呼吸法の指導・呼吸と動作の同調
- 仕事量の調節
 - 単位時間当たりの仕事量の調整
 - 休憩をとる
 - 動作の簡略化
- 動作様式の変更
- 環境調整



● ADL・IADL トレーニング例

□ 食事動作

- 食事形態
- 呼吸と嚥下のタイミング
- 食事スピード
- 休憩の取り方
- ポジション
- 嚥下機能
- 栄養状態



□ 整容動作

- スピード
- 呼吸パターン
- 力の入れすぎ

□ 更衣動作

- 労作として理解しているか
- 胸郭の動き
- カニュラの取り扱い
- 姿勢

□ 排泄動作

- 息を止めてないか
- 酸素をはずしてないか
- 腹圧をかけるタイミング

□ 入浴動作

- 脱衣姿勢
- 洗髪姿勢と動作
- スピード ● 過剰な力
- 呼吸と動作の同調
- 道具の使用 ● 風呂の温度
- 湯船のつかり方
- 脱衣場の環境・温度
- 休憩の取り方

□ 炊事動作

- カニュラの取り扱い
- 動作スピード
- 力の入れ方

□ 掃除動作

- 体の使い方
- 器具の使いやすさ
- カニュラの取り扱い

□ 洗濯

- 洗濯物の取り出し方と重量
- 物干しの高さ

□ 布団の出し入れ

- スピード
- 休憩の取り方

● 心理面へのアプローチ

□ 積極的傾聴

- 対象者の訴えを傾聴し、共感して受け容れ、保証・説得・教育などの支援的アプローチを用いて患者が自分の疾患を正しく理解し、受容していく過程を援助する。

□ 認知療法と行動変容

- 対象者が自らの認知のゆがみを修正し、望ましい行動パターンを獲得できるように支援する。

□ ストレスマネジメント

- ストレス対処法の学習を促進する。

□ ピアサポート・患者会

- 交流を促進し、心理的なサポートが得られるように支援する。

呼吸器疾患の作業療法

Occupational Therapy in Pulmonary Rehabilitation

◆呼吸器疾患の特徴

呼吸器疾患は扱う疾患が多彩であるという特徴があり、そのなかでも気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（Chronic obstructive pulmonary disease；COPD）、肺癌、呼吸器感染症は4大疾患といわれています。わが国の死因順位第1位は悪性新生物ですが、がんの中では肺癌が死亡原因の第1位を占めます。また呼吸器疾患の中で患者数、死亡率の増加から近年最も注目されているのは、COPDです。WHO（世界保健機関）の統計によると、COPDによる死亡率は今後さらに増加すると予測されています。

◆人と作業と作業療法

○作業とは生活を形成する人間活動の総称です。人が生きていくためには作業が必要不可欠です。何らかの障害を負い、必要な作業や意味のある作業が上手く遂行できなくなった時に、そうした状態を改善し、再び必要な作業や意味のある作業ができるように支援し生活を再設計するのが作業療法士です。

○疾患や障害のあらゆる時期（予防期・急性期・回復期・生活期・終末期）が作業療法の支援の対象です。また、対象者のみならず家族や環境にも必要な援助をおこないます。



◆作業療法士にできること

○ADL・IADL能力向上：呼吸法の指導、呼吸と動作の同調、仕事量の調節、動作様式の変更、環境調整をとおして、トイレや更衣などの身の回りのことと、家事など地域生活に必要な作業ができるように支援します。比較的関わる事が多い事項に以下のものがあります。

- 食事動作
- 整容動作
- 更衣動作
- 排泄動作
- 入浴動作
- 炊事動作
- 掃除動作
- 洗濯動作
- 外出
- 趣味活動

○家庭復帰支援：環境調整、動作の工夫などを提案します。

○生活のデザイン：二次的な障害を予防しつつ、意味ある作業への参加ができるように、環境調整や習慣形成を援助します。

○心理社会的支援：対象者の訴えを積極的に傾聴するとともに、望ましい行動パターンが獲得できるように支援します。また、ストレス対処法の学習や患者会などでの交流を促進します。

◆作業療法に関する詳しい情報は？

○日本作業療法士協会のホームページをご覧ください。 <http://www.jaot.or.jp>

○日本作業療法士協会では、呼吸器疾患に携わる経験が3年程度までの作業療法士にむけて、具体的な作業療法支援について記したマニュアルを作成しています。